

刊夕日一卅月十

# 常警每日新聞

定価 一月五錢 三月十五錢 半年三十錢 一年六十錢  
電話 六三〇〇  
印刷所 常警每日新聞印刷株式會社



## オリナシ 秋 (4)

木津茂太郎

程なく政次歸つて來る  
數二等の所へ來る。數  
一云々

T—十ちやんは何處に居た  
ね。

政次。  
T—十ちやんはね、豊坊と  
あそこの路を登つて行  
つたよ。

聞き耳を立てる彼等。  
品太郎。

T—そして—  
政次。

T—そしてね、十ちやんと  
豊坊がね、権現山の薄  
ッ原でね、帯を解いて  
たよ。着物もぬいで。

T—裸に……  
とおどろく品太郎等。

T—それから—  
政次。

T—草のかけでよく見えな  
かつたんだよ。  
沈黙する少年達。

太鼓。  
それを打つ手。(溶暗)

十吉學校へ歩いてゆく  
(溶暗)

あれから十日後……  
山田と云ふ大百姓の家  
の石垣。

一人の旅人が草の上  
に休んで、煙草をふ

かしてゐる。  
通と掛る十吉。  
立上る男。  
逃げる十吉。  
追ふ男。  
十吉の口もと。(おほ  
さく)

### ナイフ

ナイフ  
やホーク

の取扱ひ方は、運ぶ料理  
に合せて、順序よく置い  
てありますから、外側か  
ら順に使ひます。ナイフ  
やホークは柄の端が、手  
の内から外に出ぬ様に持  
ちます。

T—あれい—  
十吉の家。夜。

父母がしほれてゐる。  
十吉が夜になつても歸  
つて來ないのだ。

戸があく。  
村人が入つて來る。

T—居ねえだよ。—義兵  
衛さんが云つたがね、  
今朝方山田さんの石垣  
のところ、變な旅の男  
が居たんだとよ。義兵  
衛さんは殊によるとあ  
いつにさらはれたかも  
知れねえつて云つてる  
よ。

村人たちが夜になつて  
も搜索してゐるらしい  
山の方へ行く燈火。  
數一や品太郎や政次も

矢張搜索に加つてゐる  
お豊の家。  
お豊ひとり倉の壁に凭  
れてうつむいてゐる。  
ホロホロ流れ落ちる涙  
たの……

T—十ちやんは何處に行つ  
たの……

仰ぐお豊。  
空。

美しい三日月。  
うつむくお豊。  
倉。(全景)

T—十ちやん、あんた、何  
處へ行つちやつたの。  
仰ぐお豊。涙が一ぱい

二明日の献立二  
【朝】ねぎ—おから—みそ  
汁  
【晝】かしは—きすおろし  
肉—松茸—みつば—  
へぎゆず—茶わんむ  
し  
【晚】つくね—いわし—ご  
ぼうの旨煮

空。美しく光つてゐる  
三日月。  
T—十ちやん!—  
泣き伏すお豊の姿。  
T—十ちやん、十ちやん!  
倉。(全景)

ちひさく、草の中に泣  
き倒れてゐる少女。  
…【をばり】…

磐城共濟病院案内

院長 醫學博士 石山謙

内科 醫學博士 石山謙  
小兒科 醫學博士 石山謙  
外科 醫學博士 石山謙  
喉科 醫學博士 石山謙  
皮膚科 醫學博士 石山謙  
産婦人科 醫學博士 石山謙  
X光線科 醫學博士 石山謙  
衛生試驗所 醫學博士 石山謙

診療時刻午前八時より午後五時迄  
但急患は此の限りに非ず

平町 磐城共濟會  
電話 六四一 番

不況時代に愛煙家の一大福音

『巻たばこ』やめて一村榮えけり  
粉な迄すえよ自力更生  
おいしい巻煙草が御家庭で  
ドシ〜出來ます (六錢の割)

材料五百本分に  
付製造器具一揃 **無代進呈**  
キザミ煙草を買つて來て巻煙草を作るので  
す。キセルで呑めば三分の一ポンと捨てる、  
粉末も惜しいが捨てねばならぬが、それを巻  
煙草につくれれば最後の粉までおしく(粉ほど  
おしく)頂けます。

大特價 (圖入製造法は詳細現  
品に説明書を添附)

巻煙草の材料五百本分箱入  
一箱送料共大特價金六拾錢

(必要な製造器具は右の材  
料に添へて、無代進呈す)

製造品は最新考案。お子さんでも、どなたで  
も話しながら譯なくトシ〜出來ます(本社  
代理部でも毎日子供が實驗……面白くほど好  
成績です)「さつき」四十本で五百一本で出來  
るから「敷島」廿本入が材料代共六拾六錢で  
す。【一切前金—代引金謝絶—】

一手發賣元  
東京市神田區分川小路二の二  
**日本佛教新聞社代理部**  
振替東京一五八六〇番

味覺の秋

骨ごとパリ〜かじる  
…小鳥のつけ焼…  
中でウマイのはアオジロ、スズメ……  
御酒によし御飯によし—御家庭にも一度  
御試食を頂ます

鳥 菊  
平町南町(電二八六)

金銀高價買入

根本時計店

質札は(金時計鎖指輪類)有利に御相談致します  
平町田町丸新デパート

冬の通學服

原料高に逆行した  
英斷的の特價提供

黒小倉長ツボン付  
一年生用 八十五錢ヨリ  
弊店特製  
一年生用 一圓五十錢ヨリ  
モリタヤ洋品店  
平5丁目 電353

専門 内科一般

宅診—内科は何でも診療致します  
往診—呼吸器病ばかりではありません  
平町南町六五

川井内科診療所

醫學士 川井重子  
女醫 川井安子  
電話一八一番

月曜言論

支廳設置を待望

元の知事連に依つて組織さるる中央報徳會は、府縣廳と町村との中間機關として、府縣支廳を設置する意見を熱心に提唱し、内務首腦部も翻然是れに同意を表した結果、齊藤首相も遂に動かさるゝに至つたといふこれは地方行政事務の上から誠に喜ばしい吉報であると思ふ。

地方財政を緊縮する爲めに郡役所なる中間機關が廢止されて後、果してどうなつたかといふに、地元石城郡を一例に擧げて、土木監督所、稅務出張所、米穀取締所等の中間機關續出し、更らに近くは蠶業取締所が設立され様として居り、行き場に窮した各種郡單位の團體は團體事務所を設置して經費の捻出に頭をしぼる等、郡役所は廢止されても、實際には其の分身在種々の型に依つて現れ反つて事務は繁劇錯綜して居る。

而してなまじ縣直接である丈に、事務上の往復に面倒が倍加し、町村長や町村議が福島へ出掛ける旅費の負擔だけでも容易でない。斯かる實狀に徴しても郡役所の廢止は實に無意味であつた事が明らかになつて居る。或ひは國家非常時で行政整理を叫ばれて居るから、官廳の新設は考へ

物であるとの意見があるかも知れぬ、而し國家非常の時に、必ずしも多數官吏を職首して失業者を製造するに當らないのである、寧ろ必要ある處に仕事を開

拓して、徒手傍觀爲す業なき人間を有用に働かせてこそ非常時打開の途である云ふべきであらう、謂んや府縣支廳の實現によつて從來の群小中間機關が整理統

一されるのであつて見れば經費の点に於ても大して變りがなく、殊に地方行政上の管掌不便が一掃さるゝ上からも此の機關の實現を待望せねばなるまい。

イワシを加工し

鯨節の代用品製造

小名濱水産試験場から

市場へ賣出す

石城郡小名濱町水産試験場では毎年石城近海より漁獲されて過剰を來たし肥料に迄使用される鯨の加工に就いて豫てより研究中であつたが此の程鯨を鯨節の代用品として鯨節の製造に成功したので近く小名濱と稱して市場に送り出す計畫である

員は此程任期満了となつたので去る廿八日は改選を行つた結果左記の六氏が當選した

- 松本政悦 豊野豊太郎 草野熊太郎 渡邊惣四郎 葉谷傳藏 根本宇吉

防火ポスター

明日審査會を

高萩區代議員 石城郡赤井村字高萩部落區代議員

既報來日五日よりの防火運動宣傳の爲め平署では管内小學校生徒の防火ポスター

を懸賞募集中の處四百餘点の応募を見たので明日午後一時より平署會議室に於

町長時代の思ひ出

談氏衛彦見伏

町長に就任早々、最も脅威を受けたのは、附近農村から持ち出された一糞尿無料汲取の問題である、是れは少々鼻もちのなる問題だけに少なからず面喰つ

農家の經營上から云つて人造肥料等よりも糞尿を肥料に當てた方が非常に經濟的であり、且つ効果的であるのだから、全然無料と云ふ事は餘りに虫の好い話であり、平町としては唯ハイと承知する譯にゆかない。

其處で平町は窮後の一策として新川と古川の間に汚物の處分所を造らうとする處迄議が進んだが結局當時の佐瀬郡長が郡農會長の資格で調停に乗り出し、値段を幾分低減するといふ様な事で落着を見た、

それが自分の町長に就任する早々の問題であつた丈に、附近町村との融合聯絡の必要を大に感ぜしめられ、以來農會長の山崎與三郎氏とも相談して附近町村との聯合立毛品評會や、農作物の品評會等を平町が中心で毎年開く事に努めた、夫れからあつたか、昨年も一寸糞尿問題が擡頭し始めたが別段の難關にも逢着せず沙汰止みとなつた事喜んで居る。

平商優勝

昨日の庭球戦

既報若城青年學校庭球部主催の學生庭球大會は二十九日午後二時より同校コートに於て鈴木猪狩兩氏審判の下に開催出場チームは十四にて頗る盛會を極めスコアは左の如く平商業學校木田、塚本組が優勝した

△準決勝 好小 平商 鬼澤0-3 塚本 高橋 平商 鈴木 警青 本木 2-3 須本

△決勝 平商 木田 3-0 鈴木 木田

夏井川の堤防變更

土木課長視察

既報石城郡夏井村地内夏井川の改修工事は本年度内に十萬圓の豫算を以つて去月廿日より着手されたが豫より同村字下大越部落民より内務省に陳情中であつた夏井川堤防位置の一部變更方に就いて現場調査の爲め本縣土木課長が鈴木代議士と共に今夕來平すると

平第一

勝残る

職員對校野球

既報濱三郡小學校教員對抗軟式野球大會は昨日午前十一時より平第一、平第三、平商の各グラウンドに於て開催されたが戦績は左の如く互に接戦を演じ結局平第一が勝残り不戦の勿來と共に來る十一月三日午後一時より平第一小學校グラウンドに於て決勝戦を行ふ事になつた

▽一回戦 四倉1-5 泉 湯本2-13 勿來 好間15-0 入山 内郷3-1 久之濱

▽二回戦 勿來13-11 泉 平一14-1 好間 平二1-2 内郷

▽準決勝 平一3-2 郷

勿來不戦

郷

郷

郷



●は切貸● の番三四三話電 ミシサ !!!へーシクタ和昭

平町人事 回出生 北目七八 當時石城郡神谷村字鹽四國友保教氏四男行男 三丁目一六 佐々木光男 播穂小路三三 永山定吉 氏四男清喜 回死 大工町一五 豊吉氏孫渡邊富七ツ

### 本紙十周年 愛讀者招待 映畫觀賞招待會

一、日時 十一月一、二兩日 午後六時より

一、會場 平館並びに世界館共通

一、映畫 明紙に發表します

一、無料 招待券御持参になれば入場料、下足料等全然不要です

御注意……此の催しは、讀者各位多年の御愛顧に酬ゆる本紙の微衷に依る催しに就き、當日御祝儀等を御持参なされても、絶對にお受け致しませんから、左様の御心配なき様豫めお断り申上げて置きます

十月卅一日

### 常磐毎日新聞社

### 麗人松原嬢が 特に平小唄獨唱

今晚の『音楽と映畫の夕』に

既報メソソプラノ松原嬢セロ森屋比佐雄氏、ピアノ山田千代子嬢の一行は

仙臺市に於けるラデオ放送及び演奏會を済して昨日午後三時十七分の上り列車で來平、本日は午前中平第一、第二兩小學校講堂に於て藤田、平陽の生徒を加へこの演奏會に出演更に午後一時より磐女校にて

演奏し松原嬢の既に定評ある豊麗な肉聲は

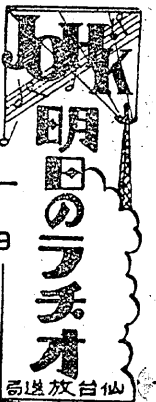
の喜びを感ぜしめアンコールは暫し鳴り止まなかつた今晚は愈よ六時半から平館で一般の爲めに開かれる『音楽と映畫の夕』に出演綾なす

### 防火組合長等 防火運動協議

平署では防火運動に關し明日午前九時より市内廿五火防組合長を同署會議室に招集協議會を開く由

父殺未遂は 既報去 懲役十二年 二十

六日平支部に於て上田檢事より無期懲役を求刑された須賀川町馬場東四十三番地居住食肉商西間木武司(三)の尊屬殺人未遂事件は本日午前十一時より平支部公判



明日のラジオ 報豫氣天 今晩は北東の風 曇り明日は北西の風晴れ

### 今晚の部

後六、〇〇 子供の時間 マンドリン合奏「アラビヤ風行列」外 アルモニアマンドリンオーケストラ 指揮澤口志左工門 後六、二五 英語講座 初等科(一七)岡倉由三郎 後七、三〇 産業ニュース

延に於て中島裁判長係り關口竹内兩判事陪席上田檢事

### 鐵道線路に 一面の菊花

番人の優しい心やり

親切な踏切の小父さんで通つて居る古鍛冶鐵道踏切の番人安齊君、今年も旅客の眼を慰め様との優しい心から同踏切附近鐵道線路に添ふて栽培した菊花が非常な上出来で時を得顔に咲き誇り通る列車の窓近くまで花輪を差しのべて居る

### 下宿屋の二階で 常習連大賭博

平署員總出の大格闘 大半を取逃がす

平町搔植小路下宿屋大和屋事猪狩ヨシ方二階で昨日午後一時半頃十餘名の一團が賭博の開帳中を探知した平署では署員總出で同家を包圍して大格闘を演じ山野清次郎外三名を檢擧し逃走せる犯人を捜査中であるが何れも三四犯を有する常習犯揃ひであると

### 保養中の青年が 二百圓を持逃げ

親元から平署へ

栃木縣西奈須郡古牧村字三雄居住彌次郎三男佐々木幸次(二)は八月頃より神經衰弱となり自宅で保養中のところ去る廿日温泉治療をす

### 明日の部

前九、一〇 料理献立「ピラフラスン」朝倉長吉 前一、〇〇 「日本國民歌」謹唱狀況「東日」大毎懸賞當選歌「東日」大毎新聞社主催(明治神宮社前より中繼) 前一、三〇 婦人講座 「聖徳餘光」下田歌子 後〇、〇五 東京ラヂオオーディオ 後一、五〇 運動競技(雨天順延)六大學野球リグ戦試合狀況「明治神宮」外苑球場より中繼 後二、〇〇 家庭大學講座

「明治文學觀念小説と悲慘小説」早大教授本間久雄 後五、三五 講演「農民工藝の輸出化に就て」工藝指導所長國井喜太郎 後六、〇〇 子供の時間 後六、二五 英語講座 中等科(三、七)田部隆次 後七、三〇 講演「最近讀書の感想」文學博士新村出 後八、〇〇 琵琶「景清」永田錦心作 堀江錦蛙 後八、三〇 觀世流謡曲「井筒」シテ地遊藤善作 後八、五〇 ラヂオドラマ

### 人命 救助 表彰

石城郡神谷村阿部省三君は去る八月十一月小名濱町宇沖見町海岸で溺死しかけた湯本町の須藤武一郎を救助し廿六日付を以つて赤木知事より表彰された

### 書方出品兒童

二小學校にては来る十一月七八九の三日間本縣女子師範學校に於て開催される第一回縣下小學校兒童成績品展覽會に書方の出品兒童を左の如く決定した (二年)柴田離若子 大和田キヨ子 伊東スミ子

### 平職業紹介所報告

人を求める方 回人を求める方 雑夫 四十才以下 尋卒 日給七十錢(平町某) 農夫 三十五才 尋卒 月八圓(四倉町某) 大工 四十五才 日給六十錢 委細面談(平町某) 女中 二十才前後 尋卒 給料面談(平町某) 回職を求める方 雑夫 六十二才 尋二修 給料面談(平町某) 仕上工見習 十五才 高卒 給料面談(好間村某) 自動車助手 二十二才 尋卒 給料面談(平町某) コック 二十一才 尋二修 給料面談(好間村某)



【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演  
近藤紫雲畫

第百八十八席 平手

繁藏の身内は助五郎の許より今日にも何とか挨拶がなければ押出せと云ふ事にしてその沙汰のあるを待つてゐた、すると繁藏の許へ訪れて来たは一人の若者

○「へ今日私は松岸の半次の若い者でございますが、此方の子分衆の事に就て親分が申上げることがござります、一應この事をお耳に入れて置きます」

それを聞いた繁藏「これは、御苦勞さまでござります、それではお出でをお待ち申して居ります」

繁藏は惻口者ですから、決して若い者だからと云つて粗路には取扱ひません、丁寧に口を利いた、右の使ひは引返して行く間もなく一挺の駕を横付けにした者がある、それは申すまでもなく松岸の半次です、異名を風窓と云ひ是も顔役

半「御免下さいまし」  
繁「ヤア半次どん、さアどうぞ此方へ」  
半「左様なら御免を蒙ります」  
草履を脱いで上る、繁藏は半次を奥へ伴れて

平手初め一同の者は半次が出て来たは三人の事に相違ない、どんな事を云ふかと次の間で聞いてゐる、繁藏はまづ半次に茶をすゝめて繁「どういふ御用かまづそれを聞きませう」



半「此方の子分衆の宇吉さんに與一さんに六藏さんと助五郎の身内が飯岡の鍋屋で間違ひを起しまして」  
繁「あゝその事ならば聞きました、彼奴等は怪俄をいたしましたが、其れがどうかしましたかね」  
半「どう軽くお前さんの方

から出られると仲へ入つてこの半次も洵に話しが善い實はこの事に就いて洲の崎の政吉が大さう心配いたしましたして私の下に來て笹川の親分の御立腹なさらぬやう詫をして呉れと慇懃頼まれて出ましたやうな次第で」  
繁「ア、それは御苦勞さまでどんな事から間違ひが出来たかそれは知りませんが、大方酒の上の口論が原因だらう、あんな三下野郎の事に就いて立派な親分衆が心配して下さるとは彼奴等の譽私より厚く御禮を申上げます、然し祭禮を見物に行つ

騷動が出来た時はお前さんは手を引いて下さい、のう半次どん、見て見ぬやうな態をして居て下さい」  
何となく奥歯に物の挿まつた返答  
半「承知いたしました、何れ改めて御挨拶に出ます」  
繁「今夜は泊つて行つて明日お歸んなさい」  
半「イエ政吉が待つて居りませうから直戻ります、御免下さいまし」  
と半次は待たした駕に乗つて引返す、その後へ何處に隠れてゐたか六藏と與一に宇吉の三人、晒木綿で傷口を繃帯して表から入つて來た、平手は是を見たと造「何故助かつて歸つて來た、貴様達が死ねば喧嘩になつたもの、を此の大馬鹿野郎」

た他土地の者をその土地の助五郎どの若い者が打叩くは無法だ、よく遊びに來て下さつた取扱つて下さるが當然、まア、どんな事を云つた所でこれは愚痴、時に此處はお前さんの顔に免じて笑ひますが、この後どんな事が、來るか、若し

箱に納め懐中物を検めて後席へ通す、一刀一挺七首一ツも携帯するを許しませんこれは間違ひを起さぬやうにと半次が取計らつたものです。

**梅毒** 淋病 皮膚病 婦人病  
**林病** 腸胃病 腸虫病  
門專  
院醫科 腸胃病 胃性病 村松  
〇七一話電 町南平

ツブシ・金銀  
**高價買入**  
修繕 迅速 丁寧 廉價  
星野時計店  
平三丁目驛前通り

木村 外科醫院  
平町五丁目橋際  
電話 三〇九

イヤ！君！  
いゝ冬服を求めたね  
断然三二年型だよ  
いやコレカネ！  
例の……「ソレ」  
正札堂さ  
  
六三四電通場車停目丁四町平

**外科** X 光線科  
性病科  
科  
平町田町  
安齊外科醫院  
電話 四七五番

嚴冬の征服者  
福祿ストーブ  
戸毎に福祿！四海は常春!!!  
  
電話 三七番へ  
カタログ御申下さい早速持参致します  
福祿ストーブ福島縣一手販賣  
阿部石炭商店  
平停車場前

**吉田眼科病院**  
平紺屋町、電話 六八番